

令和4年度 学校経営計画に対する中間評価

集計結果で、〈 〉はR03中間評価、()はR03最終評価のデータ

石川県立野々市明倫高等学校 No.1

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)	判定基準	備考
1	① GIGAスクール構想の実現に向けた教職員の研修をとおして、ICT活用指導力の向上を図る。	副校長 教頭	研修や授業をとおして、個々の生徒の学習状況に応じたICT活用指導力が昨年度よりも向上したと考える教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	a よく当てはまる 30.2% 〈39.1%〉 b やや当てはまる 52.8% 〈47.8%〉 a + b = 83.0% A評価 〈86.9% A評価〉	・昨年度は「ICT活用指導力」であった達成度判断基準を、今年度は「個々の生徒の学習状況に応じたICT活用指導力」と変更したことで、昨年度のポイントを下回った。 ・昨年度は月1回の校内研修や授業実践等で、教員のICT活用技術や使用頻度は確実に向上しているものの、個別最適な学びの実現に至らない自身の活用指導力に満足していないのではないかとと思われる。 ・今年度は、学校および各教科の推進リーダーが中心となり、GIGAスクール構想取組みを進めているところであり、今後も各教科のニーズに合わせた研修を企画・継続し、ICT活用指導力の向上に努めていきたい。	CまたはDの場合、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。 【教員アンケート④】
	② 業務負担の軽減や時間管理の改善などにより、職員の多忙化改善を進める。	副校長 教頭	時間外勤務が80時間を超える教職員の月平均の人数が A 0人 B 1人未満 C 2人未満 D 2人以上	(単位：人) 4月 5月 6月 7月 平均 80時間以上 10 8 5 4 6.8 (5.3) うち100時間以上 5 2 0 3 2.5 (1.0) D評価 〈D評価〉	・今年度、定時退庁日を月2回指定し、計画的・効率的・効果的な業務遂行(タイムマネジメント)を目指しているが、授業準備や分掌業務、部活動指導などで、昨年度同時期の平均値より、月80時間以上、月100時間以上は共に1.5人増となった。 ・今年度初めて担任業務に関わる教員が多い中、業務の偏りの是正や棚卸し、短時間でより効果上がるような部活動指導方法に加え、ICT活用による日常の改善などのGIGAスクール構想の実現が働き方改革につながる意識を持たせたい。 ・教育の質を下げずに、時間外勤務を減らし、教員が元気に安心して働ける学校を目指し、さらに取り組みを進めていきたい。	CまたはDの場合、改善策を検討する。	勤務時間記録により年度末に評価する。
2	① 書くことを基本とし、生徒自身が考えを整理し、深く思考することで論理的思考力及び批判的思考力を鍛え、課題発見・解決能力を身に付けられるようにする。その際、教職員は主体的・対話的で深い学びを実現する様々な手法を活用する。	教務課 各教科	アクティブ・ラーニングやディスカッションさらにICT機器を活用することにより学習効果が高まった(a強く + b やや)と感じている生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	a 強く感じている 33.8% 〈28.3%〉 b やや感じている 50.5% 〈52.7%〉 c あまり感じていない 13.5% 〈15.4%〉 d 感じていない 2.2% 〈3.4%〉 a + b = 84.3% A評価 〈81.0% A評価〉	「強く感じている」+「やや感じている」が昨年度より3.3ポイント上回った。これはアクティブ・ラーニングやディスカッションについて、コロナ禍で制限されていたペアやグループでの活動が、徐々に行われるようになったことや、一人一台端末が全員に貸与されたことによって、ICT機器を活用し、学習効果の高い授業がなされていることが要因と考えられる。ICT機器の活用に関しては、教員間でも利用方法や効果の情報共有が増えてきているので、今後、さらなる授業改善が期待できる。	CまたはDの場合、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。 【生徒アンケート⑦】
	② 授業において、生徒が自分の考えを述べる場面、論理的思考力が育まれる場面、教師と生徒及び生徒同士が意見交換する場面を設定する。	教務課 各教科	日々の授業において、教師が論理的に答えさせる質問をし、生徒が教師や生徒同士と意見交換する場面を(a多く + b時々)設定している割合が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	a 多く設定 25.5% 〈34.1%〉 b 時々設定 51.0% 〈55.7%〉 c あまり 23.5% 〈10.2%〉 d 全く 0.0% 〈0.0%〉 a + b = 76.5% D評価 〈89.8% C評価〉	質問内容「考える必要のある質問」「生徒が発表する場面」を「論理的に答えさせる質問」「教師や生徒同士と意見交換する場面」と変更したので、昨年度との単純比較はできないが、「a + b」が13.3ポイントも下回り、D評価だった。1人1台端末の活用により、発言場面がなくても個人の意見を全体で共有することが簡単になったが、意見交換し深い学びに至っていないと感じている教員が多いことが要因と考えられる。「論理的に答えさせる質問を考える」と「意見交換をし、考えを深める場面を作る」授業改善を促していきたい。	CまたはDの場合、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。 【教員アンケート⑥】
	③ 授業内容と家庭学習の連動を図り、学習習慣の確立と学習内容の質の向上をめざす。	教務課 各教科	家庭学習に積極的に取り組み、十分に確保できたと考えている生徒が、 A 90%以上 B 75%以上 C 60%以上 D 60%未満	a よく当てはまる 12.1% 〈16.7%〉 b やや当てはまる 47.6% 〈46.0%〉 c あまり 34.4% 〈32.1%〉 d 全く 6.0% 〈5.3%〉 a + b = 59.7% D評価 〈62.7% C評価〉	昨年度と比べ、「a + b」が3ポイント下回り、D評価に下がった。特に2年生の「a + b」が47.8%と低い。日々の授業では学習効果が高まったと考える生徒が増加しているの、学校での授業は充実しているが、それだけで理解できたつもりになり、家庭学習での理解定着がなされていないことが考えられる。担任、教科担当、部活動顧問も含め、あらゆる場面で家庭学習の大切さを訴え、積極的に取り組ませていきたい。	CまたはDの場合、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。 【生徒アンケート⑤】

令和4年度 学校経営計画に対する中間評価

集計結果で、〈 〉はR03中間評価、()はR03最終評価のデータ

石川県立野々市明倫高等学校 No.1

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)	判定基準	備考
	④ 朝学習の充実により、学びにむかう主体性を身につけ、学びの質を高める。	各学年	朝学習で学力や教養が身についたと考える生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【1年】 83.4% A評価 (76.4% B評価 昨年度1年7月) 【2年】 74.6% B評価 (80.7% A評価 昨年度1年12月) 【3年】 82.8% A評価 (81.7% A評価 昨年度2年12月) 【全体】 80.4% A評価 (80.3% A評価 昨年度全学年12月)	【1年】 生徒は落ち着いた様子で朝学習に取り組んでいる。過回比較(昨年度7月)で7%増加している。週3日、国数英の基礎・基本を身につける内容に取り組んでいる。その成果も現れている教科もある。今年度から言語能力と社会課題を多角的に捉える力の育成を図るために論理言語能力検定のテキストを週2回行っている。今後も取り組む内容を精選し、生徒にとって有意義なものになるように指導していきたい。 【2年】 過回(昨年度1年12月)と比較すると、肯定的にとらえている割合が6.1%減少した。2年生は中だるみの時期と言われるが、小テストに合格できない生徒も多く、コロナ禍の影響に加えてモチベーションの低下が原因として考えられる。動機づけを工夫し、2学期から文・理コース別の内容になる朝学習に前向きに取り組む生徒を増やしていきたい。 【3年】 過回比較(昨年度2年12月)で見ると、肯定的に捉えている割合が1.1%増加している。外国語科は英文速読とリスニング演習、他の教科は小テストを中心に朝学習を行っている。今年度は不合格者に対して再テストは行わずに、生徒の能動的・自発的な取り組みを促している。今後も、朝の15分の積み重ねを大事にして、基礎力をつけさせていきたい。	Dの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。 【生徒アンケート⑥】
3	① 個別面談や学習活動を通したきめ細かな指導により生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期に高い進路目標を持たせ、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。	進路指導課 学年 教科	【1・2年】9月の進路志望調査で、国公立大学合格を目標とする生徒が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 75%以上 【3年】9月の進路志望調査で、金沢大学以上を目標とする生徒が A 70人以上 B 50人以上 C 30人以上 D 30人未満	最終評価で集計する。		CまたはDの場合は、改善策を検討	9月の進路志望調査の結果で判断する。
	② 進路指導課から各学年、教科に方針を発信することにより、教員全体の相互理解を深め、生徒の進路志望を実現するための学力向上の取組を組織的に行う。	進路指導課 学年 教科	1、2年生の11月実施の総合学力テストにおいて、国語、数学、英語の各教科の全国偏差値が A 平均偏差値48以上 B 平均偏差値45以上 C 平均偏差値42以上 D 平均偏差値42未満	7月進研模試における全国偏差値 ()内は昨年度同時期値 【1年】 国語46.2 (47.2) 数学48.8 (48.9) 英語44.7 (44.4) 【2年】 国語46.8 (45.6) 数学48.5 (47.1) 英語45.8 (46.5)	7月進研模試の3教科総合全国偏差値は、1年が46.0(昨年46.4)、2年が46.5(45.9)であった。1年は昨年度と比較して、度数分布についても大きな変化はなかった。今年度の2年は、国語と数学で昨年度より全国偏差値が高くなった。評価は11月の進研模試で判断する。	CまたはDの場合は、改善策を検討	1、2年 11月総合学力テストの結果で判断する。
			1、2年生の11月実施の総合学力テストにおいて、国語、数学、英語の3教科総合の全国偏差値54以上の生徒が A 45人以上 B 40人以上 C 35人以上 D 35人未満	7月進研模試における全国偏差値54以上の生徒数 ()内は昨年度同時期値 【1年】 16名 (20名) 【2年】 34名 (22名)	7月進研模試の結果、全国偏差値54以上の生徒は1年では16名、2年では34名であった。2年は平均偏差値と同様に前年度を上回った。1年においては、昨年度の1年より下回っている。評価は11月の進研模試で判断する。	CまたはDの場合は、改善策を検討	1、2年 11月総合学力テストの結果で判断する。

令和4年度 学校経営計画に対する中間評価

集計結果で、〈 〉はR03中間評価、()はR03最終評価のデータ

石川県立野々市明倫高等学校 No.1

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)	判定基準	備考
			金沢大学以上の国公立大学合格者数が A 10人以上 B 8人以上 C 5人以上 D 5人未満	最終評価で集計する。		CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する
			国公立大学合格者数が A 70人以上 B 65人以上 C 55人以上 D 50人以上	最終評価で集計する。		CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する
			難関私立大学合格者数が A 10人以上 B 7人以上 C 5人以上 D 5人未満	最終評価で集計する。		CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する
4	部活動や生徒会活動の活性化とともに、地域行事への積極的参加を通して地域貢献に努める中で、視野を広げつつチャレンジ精神やレジリエンスの涵養を図り、明るく活力ある学校づくりを推進する。	① 保護者にPTA活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらう。 ② 本校の教育活動、生徒の活動の成果をホームページ上に掲載し、広く情報を発信する。 ③ 部活動の加入を促し、学校全体の活性化を図ることで、生徒のチャレンジ精神の向上とレジリエンスの獲得を目指す。	総務課 学校行事やPTA活動で保護者が来校した・または職員とのやりとりを電話などでした回数 の平均が3回以上の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	7月現在、来校または職員とのやりとりした回数が 5回以上 3年 3.9% 2年 4.0% 1年 9.7% 4回 3年 2.0% 2年 0% 1年 3.7% 3回 3年 10.5% 2年 10.1% 1年 21.7% 2回以下 3年 83.6% 2年 85.9% 1年 65.0% 3回以上 3年 16.4% 2年 14.1% 1年 35.1% 3回以上 全学年 23.7% D評価	8月現在で3回以上来校または職員とのやりとりをされている方が23.7%であり、昨年の同時期と同じような数字である。5月のPTA総会が昨年に続き中止となったが、7月までに保護者懇談、進路説明会、入学式、挨拶運動があり、1～2回足を運んで頂いている。これから明倫祭や教育ウィークもあるので、感染症防止対策による制約はあるが、来校または職員とのやりとりを通し、学校での活動や生徒たちの様子を知らせてもらいたい。ホームページやメール配信を通じて広報活動を継続する。	Dの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。 【保護者アンケート ⑧】
		総務課	ホームページ上のアクセス数が月間平均で A 30,000以上 B 25,000以上 C 20,000以上 D 20,000未満	ホームページのアクセス数は月間平均で 4月 36,477 5月 41,218 6月 36,124 7月 44,730 (単位 件数) 月間平均 39,637 A評価	毎月ホームページに月間行事予定を掲載しているが、同時に学校メールでも配信しているのでホームページを見る手間を減らしている面はある。また、保護者から情報が乏しいとの声があることから、今年度は毎日何らかの更新ができるよう学校で工夫しているが、どのような情報が必要なのか学校評価で具体的な要望をいただければさらに改善を工夫したい。	Dの場合は、改善策を検討	年度末に評価する
		生徒課	1,2年生の部活動の加入率が A 90%以上 B 85%以上 C 83%以上 D 83%未満	9月現在 1年生 99.6% (96.7%) 2年生 85.2% (88.7%) 1,2年生の加入率が 93.1% A評価 (93.9% A評価)	1・2年生全体の加入率が減少しなかったのは、コロナの影響で中止していた県総体・総文等の公式大会が、これまで通り開催されたことによる活動意欲が理由ではないかと考えられる。1年生は全員が何らかの部活動に加入することになっており、部活動の活性化は喜ばしいことであるが、一部の部では設備以上の多人数が入部し、十分な活動ができていない課題がある。	Dの場合は改善策を検討	12月に評価する。

令和4年度 学校経営計画に対する中間評価

集計結果で、〈 〉はR03中間評価、()はR03最終評価のデータ

石川県立野々市明倫高等学校 No.1

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)	判定基準	備考
	④ 生徒会行事、地域の行事への主体的な参加を促し、生徒一人ひとりが充実感・達成感を得られるよう推進する。	生徒課	委員会・生徒会活動、地域の行事に主体的に参加し、充実感・達成感を得ることができた生徒の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	a よく当てはまる 22.3% b やや当てはまる 41.9% a + b = 64.2% D評価 (今年度新規目標)	今年度新規の目標であり、昨年度との比較はできないが、「a + b」はD評価だった。各委員会の担当の教員や生徒に委員会活動の大切さを理解してもらうとともに、積極的に地域行事に取り組みさせていきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。 【生徒アンケート②】
	⑤ 図書委員会による本の読み聞かせや本の紹介カードの作成・展示など地域と連携した活動を行うことで生徒のチャレンジ精神と主体性の涵養を図る。外に出る機会は制限されるが、可能な範囲で活動する。	図書課	地域と連携した図書委員会活動の回数が A 年間8回以上 B 年間5～7回 C 年間4～5回 D 年間4回未満	最終評価で集計する。	<ul style="list-style-type: none"> ・お話の会のボランティアの方を講師にビブリオトーク開催。 ・野々市カレードの職員を迎えて、読み聞かせ講習会を開催。 ・近郊の保育園を訪問し、読み聞かせ実習を実施。 <p>昨年度はコロナで中止となった保育園読み聞かせ実習を実施することができ、生徒にとってよい経験となった。</p>	Dの場合は、改善策を検討。	年度末に評価する。
5	① 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する豊かな人材の育成を図る。	生徒課各学年	朝の挨拶運動などで、生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、進んで自分からしっかり声を出し挨拶できた生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	a よく当てはまる 31.9% (28.8%) b やや当てはまる 52.4% (51.9%) a + b = 84.3% A評価 (80.7% A評価)	新型コロナウイルス感染症の影響で、大きな声を出す機会が減った中、昨年度より「当てはまる」の割合が高くなっている。生徒自身の挨拶への意識が徐々に高まっていると感じられる。しかし、教員アンケートの同じ質問項目の回答では「当てはまる」の割合が高くないので、さらに前向きに取り組むよう努めていきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。 【生徒アンケート①】
	② 登校指導や生活指導などを通して、自ら身なりを正すことで規範意識を育成する。	生徒課各学年	制服を意識的に正しく整えている生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	本校の服装・容儀に関する規定を守っている生徒の割合が a よく当てはまる 69.5% (65.7%) b やや当てはまる 28.4% (32.9%) a + b = 97.9% A評価 (98.6% A評価)	冬・夏用の本校制服の可能な組み合わせを書面で例示したことにより、着用はしっかりできていると感じる。しかし、スカート曲げてひざ上丈にしている女子生徒がいるなど、着こなし方を全教員で指導して行く必要がある。	B以下の場合、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。 【生徒アンケート②】
	③ 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	生徒課各学年	交通ルール(自転車運転でイヤホン着用や並列走行をしない)を遵守している生徒が A 98%以上 B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	a よく当てはまる 63.9% (69.2%) b やや当てはまる 28.7% (27.9%) a + b = 92.6% C評価 (97.1% A評価) ※昨年度は90%以上がA評価	今年度は、交通ルールは必ず守ることや交通ルール違反は命に関わる大きな問題であることを意識させるため、達成度基準の値を変更したものの、昨年度より4.5ポイント低いC評価だった。石川県警からの交通指導状況では4～7月で21件と増加しており、(昨年度3件)加えて、近隣の住民から、登下校時の並走について指摘を受けている。生徒課を中心に全教員が連携し、粘り強く声掛けを継続する。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。 【生徒アンケート④】

令和4年度 学校経営計画に対する中間評価

集計結果で、〈 〉はR03中間評価、()はR03最終評価のデータ

石川県立野々市明倫高等学校 No.1

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)	判定基準	備考
	④ 学校内外のボランティア活動への積極的な参加を促すとともに、ボランティアに参加したことの達成感や地域貢献への意識を高める。	生徒課 各学年	ボランティア活動に、積極的に参加した生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	a 良く当てはまる 22.1% b やや当てはまる 37.4% a + b = 59.5% C評価 (昨年・一昨年度未実施)	新型コロナウイルス感染症のため、近年実施できてなかった生徒会企画による野々市駅・中央公園周辺の清掃ボランティアを、今年度は10月に実施する方向で各団体と調整中である。ボランティア活動等を通して、社会貢献への意識や人との繋がりが自分自身の成長につながることを生徒に考えてもらえるように働きかけていきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。 【生徒アンケート⑩】
	⑤ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。	相談室 各学年	学校生活が楽しいと感じる生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	1年 a 45.3% b 44.9%(7クラス) 2年 a 42.0% b 45.1%(6クラス) 3年 a 37.9% b 49.6%(7クラス) 平均値 88.4% B評価 (85.6% B評価)	昨年度7月の調査と比べ、全体平均では「楽しい」と感じる生徒が微増した。特に1年生は、行事の制限が多かった中学時と比較してか、満足度が高い。3年生は昨年7月の2年時と同様aが40%未満と低いが、bを含めると8ポイント近く上昇している。コロナ禍でイレギュラーな高校生活を送ってきたが、少しずつイメージしていたものになってきているようである。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。 【生徒アンケート⑩】
	⑥ 情報の収集、共有を密に行い、困難を抱えた生徒に対して早期に対応し支援する。	相談室 生徒課 各学年	いじめや人間関係などの生徒の変化に対して、素早く察知し、対応することができたのアンケートをとり、あてはまるの割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	a よく当てはまる 19.2% (37.0%) b やや当てはまる 75.0% (58.7%) a + b = 94.2% B評価 (95.7% A評価)	合計では1.5ポイント減と大きな変化はないが、「aよく当てはまる」が20ポイント近く減少している。一見問題に見えるが、自分の対応に満足していない教員が多いと考えると、問題に対する意識の高さととらえることもできる。全国的に対応に苦慮する問題も年々多くなっており、校内の連携を深めるとともに、外部関係機関の利用も進め、解決に向かうことができるよう努めていきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。 【教員アンケート⑭】
	⑦ 定例清掃の活動を通して、環境美化意識を高める。	保健環境課	環境美化を意識し真面目に清掃に取り組んでいる生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	日々の清掃活動を積極的に行っている割合が。 1年 92.8% 2年 89.3% 3年 93.2% 全校 91.9% A評価 <R4年度からの新規目標>	アンケートの回答項目、a よく当てはまる。b やや当てはまるの合計であるが、積極的に取り組んでいると回答した生徒の割合が高い。今後は、意識と取り組みがより一致したものになるように、また、逆にc あまりあてはまらないと回答した生徒の割合が減るように清掃監督の声かけの協力を得られるようにしたい。	Dの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。 【生徒アンケート⑩】
	⑧ 図書委員による図書便りや本の紹介の作成・発行などの図書案内や各学年団と連携した一斉読書や読書タイムといった読書指導によって、読書に親しむ習慣を身に付けさせる。	図書課	本校図書館及び「のいちカレード」を利用した生徒一人あたりの年平均貸出冊数が A 10冊以上 B 8冊以上 C 6冊以上 D 6冊未満	最終評価で調査し、集計する。	全学年大部分の生徒の、野々市図書館カレード貸出カードを作成し、電子書籍貸出の環境を整えた。	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。